

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学総合内科では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成30年1月 福島県立医科大学 総合内科 教授
濱口杉大

【研究課題名】

身体能力が低下した高齢重症肺炎患者に対する人工呼吸器療法後の転帰

【研究期間】

平成30年1月～令和6年3月

【研究の意義・目的】

体力のない高齢者が肺炎になって人工呼吸器が必要になっても、人工呼吸に耐えられずそのまま苦痛な延命処置となってしまうことが問題となっています。人工呼吸器をつけるときに、つけたとしても死んでしまう確率がどのくらいあるのか、生きたとしても寝たきり状態となってしまう確率がどのくらいあるのか、が初めから分かれば、人工呼吸器をつける前によく相談して決めることができます。つまりつけたとしても単なる延命処置となってしまうのであれば、はじめからつけずに緩和治療をする、という選択肢をある程度自信をもって選ぶことができます。

この研究は、人工呼吸器をつけた体力のない高齢肺炎患者が、普段どのような状態（年齢やもともと持っている病気、普段の体力など）であれば、どのような結果になるのか（結局死んでしまう、助かっても寝たきりとなる、それら以外）を解明する研究です。そのために過去に入院した患者様の情報を収集して解析する必要があります。この研究の結果によって、望ましくない延命処置が少しでも減ることを最大の目的としております。

【研究の対象となる方】

75歳以上（後期高齢者）で市中発生肺炎（市中肺炎または医療ケア関連肺炎）にて人工呼吸器療法を受けた患者。

【研究の方法】

病院の電子カルテから過去に肺炎で入院し人工呼吸器治療をうけた患者様の医学情報を入手して、個人が特定できないように整理します。例えば年齢、性別、持病、体力の度合い（パフォーマンスステータス）、入院歴、肺炎の重症の度合いなどともに、退院時の状態（死亡退院、寝たきりとなって退院、その他の状態で退院）の情報も入手いたします。それらを統計解析して、そのような要素を持っている患者様が、「死亡退院」、「寝たきりとなって退院」、「その他の状態で退院」のいずれの状態でも退院となったか、それぞれの状態にいたる確率を算出します。

【研究組織】

研究責任者兼研究代表者：福島県立医科大学 総合内科 教授 濱口杉大
研究分担者：京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 教授 福原俊一
研究分担者：福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 准教授 東光久
研究分担者：福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 講師 宮下淳
研究分担者：総合南東北病院 小林奏
研究分担者：福島県立医科大学 総合内科 助手 會田哲朗
研究分担者：福島県立医科大学 総合内科 助手 中本洋平
研究分担者：福島県立医科大学 会津医療センター総合内科 教授 山中克郎

共同研究施設および責任者

- 白河厚生総合病院：東光久
- 太田西ノ内病院：新保卓郎
- いわき市立総合磐城共立病院：新谷史明
- 会津医療センター：山中克郎
- 竹田総合病院：本田雅人

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

○研究内容に関する問い合わせの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総合内科学 担当 濱口杉大

電話:024-547-1933 FAX: 024-547-1210

E-mail:hamasugi@fmu.ac.jp